

楷

第六十四号

岡山大学
附属図書館報
OKAYAMA UNIVERSITY
LIBRARY BULLETIN

KAI

No.64

2017

FEBRUARY

<写真>

りうきんくわ

水草ナリ夏花

閑色金色ナリ



「備前国備中国之内領内産物絵図帳」（岡山大学附属図書館所蔵池田家文庫より）

— 目 次 —

- 鹿田分館の利用者 ～ その多様性
（鹿田分館長 松尾龍二） p.2
- 英語多読のための学習環境整備
— 「語学学修コーナー」の英語本と電子ブックの紹介—
（全学教育・学生支援機構基幹教育センター外国語教育部門 准教授 寺西雅子） p.4
- マスカット p.6
リンクリゾルバ（電子ジャーナル検索サービス）の変更、
おすすめ雑誌コーナーの設置 ほか
- 会議・研修・編集委員から p.12

鹿田分館の利用者 ～ その多様性

松尾 龍二

1. はじめに

私は平成 28 年度から附属図書館鹿田分館長を拝命いたしております。以前は時間があると図書館に通ったものですが、ここ数年は図書館への足がすっかり遠のいていました。これはネット環境が向上し、電子ジャーナルや書籍・文献検索も整備され、個人にとっては「いつでもどこでも図書館」になったためです。恐らく学生も同じことでしょうが、悪い例もあります。学生のレポートを見ると、ちゃんと図書館で調べないで、明らかに出所不詳の怪しげなネット情報が書かれていることがあります。それを信じる学生が居るとは空恐ろしい気がします。その様な状況で、図書館の役割がここ 10 年余りで大きく変わりつつあることを実感していました。平成 26 年に図書館が改修リニューアルオープンしたのも、図書館の将来像を見据えてのことだと思います。鹿田分館には鹿田地区の特異な事情もあります。ここではそれをご理解いただき、図書館の利用について私の失敗談も交えて考えてみたいと思います。

2. 鹿田分館の利用者

鹿田分館の利用者は、大きく医歯薬学総合研究科と保健学研究科、医学部・歯学部・薬学部、大学病院の教職員と学生です。教員数は岡山大学の約 4 割を占めています。教授の人数は 100 名以上にもなり、かなり幅広い教育・研究分野があります。また病院では、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、放射線技師など 10 以上の職種があり、それぞれの教育課程、免許、適用される法律も異なります。同じように白衣を着ていても全く別の職業とも言えます。従ってその教育課程においては、どうしても学生数の割に大勢の教員が必要となります。それをバックアップする図書館には豊富な資料を揃えなければなりません。

学生を見ると、3 学部の学生には卒業論文はありませんが、概ね国家試験と共用試験を受験します。この二つが大きく影響しています。共用試験（OSCE と CBT）は、トライアルを経て平成 17 年から本格的に順次導入されて来ました。OSCE は態度・技能を問う面接試験ですが、CBT はコンピュータを用いて知識を問うものです。鹿田分館の 3 階（現在は医学系図書閲覧室とセミナー室）は、一時期パソコンを 100 台以上設置して CBT に対応してもらいました。また国家試験対策の一つとして、鹿田分館では 24 時間開館を行っています。確かに月別貸出冊数では 1 月が一番多く、2 月の国家試験に向けてのことでしょう。

3. 鹿田分館の利用価値と今後 ～ 学生について

図書館の役割または機能については、多くの側面があります。従来から図書館の役割は、印刷物・資料の収集、保存、提供です。以前は蔵書数が何万冊、また有名な雑誌の初版から揃っているなどが自慢であり、図書館の価値を決めていました。それが発展・多様化して、資料室、博物館、憩いの場、カフェ（海外ではビールを飲む所も）などが図書館に増設されてきました。つい最近、「まんが」を大量に置く大学附属図書館も出現しました（まずは学生を引きつけるのが目的だそうです）。しかし大学の予算や建物など現実に目を移すと、もっと本質的な面に注目せざるを得ません。以前、文科省の設置審議会で「大学の価値は図書館で決まる」と聞いたこ

とがあります。確かに、がらんどうの教室を視察しても、大した意味はありません。それよりも学習するための設備（図書館）が充実しているかが問題になったのです。

岡山大学では本年度から、60分・クォーター制の授業スタイルになりました。10数年前に、クォーター制を導入している米国カリフォルニア大学の先生から聞いた話では、「まずカリキュラムに、何月何日にどの本のどの章を講義し、その本が図書館のどこの棚に所蔵されているかを明示する。講義の期間中（クォーター制なので数週間）は貸出禁止であり、数冊が置かれている。学生はこの期間は図書館で予習し、予習してきたことを前提にして講義をする。」とのことでした。図書館に学生数に見合う座席があるのか、本は何冊必要か、などの問題点はありますが、図書館と講義を一体化して学習するカリキュラムなのです。私も以前に一部の講義で試みましたが、「予習する時間が無い」との不満が殺到しました。受講している科目数が多すぎたのです。また鹿田分館では、60分・クォーター制になってから、学生の来館数が減少しています。今後の推移を見守る必要があります。図書館を積極的に活用した講義をしたいのですが、全体のカリキュラム体制に左右されてしまう点を考えなければなりません。

4. 鹿田分館の利用価値と今後 ～ 教職員と卒業生について

時折「図書館が狭い」という意見を聞きます。幸か不幸か特に病院関係者や実験系の研究者は時間が不規則になり易く、遅い時間帯のこともあります。また国家試験を控えた学生までも夜遅くまで図書館に出入りをします。たとえ24時間開館しても、学生と教職員の時間的棲み分けは無理な様です。むしろ24時間開館による弊害（光熱費、事務経費の上昇）もあります。また一晩中図書館に居たとしても、いずれは眠らなければならないので、逆効果？と言うこともあります。「図書館が狭い」を解消するには、やはり電子化を深化させ、「どこでも図書館」にするしかないと思われまふ。おのずと24時間開館も無意味になればと思います。

電子ジャーナルの導入は平成17年からです。最大のメリットは「いつでもアクセス可能」、「かさばらない」です。デメリットは、図書館運営費の関係で今問題になっている「割高な購読料」と「価格の変動」です。個人的には「蔵書として残っていない」、「購読中止でバックファイルへのアクセス不能、急に見えない」、よって「狐につままれたもどかしさ」となります。それはさておき、図書館が扱う電子媒体は、最も信頼性の高い責任ある情報源なのです。これが大学の社会的信頼性を裏付けているのです。

如何なる分野であっても学生や教職員そして卒業生も正しい科学的根拠のある情報を正確に学ばなければなりません。とくに医療では新たな情報や技術を生涯に渡って習得し続ける必要に迫られます。現在の様に出所不詳のネット情報が飛び交う中では、新しい情報が科学的根拠に基づいたものかを判断することが重要です。図書館を中心として、正確な情報を既卒者（開業医など）にも広げる方法を確立しなければなりません。

5. おわりに

岡山大学は、近畿地方も含めて西日本では最も多い11学部を擁する大学です。多様性が強みです。附属図書館の3館は、それぞれ違った歩みをすると思います。またそうあるべきです。図書館機能のどこに重きを置くかは時代の要求と必然性によって変わります。一番問題なのは、教職員自身が、図書館の新たな役割と機能をどこまで理解するかだと思います。

(まつお・りゅうじ 附属図書館鹿田分館長)

英語多読のための学習環境整備

—「語学学修コーナー」の英語本と電子ブックの紹介—

寺西 雅子

1. はじめに

5年ほど前から、英語学習環境の充実を図る試みとして、本学附属図書館スタッフと連携して「語学学修コーナー」に英語本の配架を継続してきた。その結果、現在本学では、様々な分野やレベルの英語をたくさん読む「多読」を実践できる英書が揃っている。英語力向上のために英語のインプットを大量に行うことは不可欠であり、「読む力」は、「聴く力」・「話す力」・「書く力」につながる。さらに、電子ブックを利用して多読を行う環境も本学に整いつつある。本稿では、「語学学修コーナー」の多読本と電子ブックを中心とする英語多読のための学習環境の紹介を行う。



中央図書館1階フロアにある「語学学修コーナー」

2. 「語学学修コーナー」と多読への取組み

平成25年度には、全学的に英語教育の向上を目指した教養教育新英語カリキュラムの導入に伴って、一般教育棟A12教室（語学演習室兼自習室）に英語本の蔵書が増加された。それとほぼ同じ時期に、附属図書館に「語学学修コーナー」が設置され、一般教育棟と附属図書館とが連動して岡大生のための英語多読環境が整えられてきた。現在の「語学学修コーナー」の蔵書総件数は約1万件であり、そのうち約5000件が **Graded Readers (GR)**を中心とする英語学習用の多読本である^(注1)。

GRとは、レベル分けされた多読本のことであり、語彙を制限したり本の長さや文法項目を調整したりして学習者向けに書かれている。例えば、『レ・ミゼラブル』は、原書（仏語）の英語翻訳版は約41万語であるが、Oxford版レベル1は約7000語で、Penguin版レベル6は約100ページ3万語でまとめられていて、本学の学生であればそれぞれ1時間か5時間程度で読むことができるであろう。

「語学学修コーナー」の **GR** を中心とする英語本の貸出件数は年間1万件を超え、平成27年度には18,913件にのぼっているが^(注2)、本学の学生数からすれば、更なる利用促進を促したいところである。

また「語学学修コーナー」には、多読本に対応するオリジナルの原書や関連映画DVDなどを可能な限り揃えて配架している。興味ある作品が見つかったら、まずはDVDを鑑賞し、次に多読本でストーリーを楽しみ、さらにじっくり原書に挑戦するといった学習法も可能なのである。そして多読本の多くはCD付なので、大量に聴く訓練すなわち「多聴」の実践も出来る。大学生の間に、このような整った英語読書環境をしっかりと利用して自分のレベルに合った英語本からスタートし、最終的には原書を読めるまでの高い英語力を身に付けて欲しい。



Oxford Bookworm Library, Level1

3. 電子ブック「多読シリーズ (英語)」の利用環境の向上について

附属図書館では、GR の主要シリーズが電子上で読める環境が整いつつある。以前から電子ブックの英語多読本は附属図書館にあったのだが、読みたい多読電子ブックを探すのは一苦労だった。ところが本年度から、附属図書館ホームページ上の「電子ブック主なコレクション等リンク」の中の「多読シリーズ (英語)」をクリックすれば、本学蔵書の膨大な電子ブックの中から、英語多読本のみを閲覧できるようになったのである。これは、本当に素晴らしい躍進でありご尽力くださったスタッフの方にこの場を借りて感謝を申し上げたい。授業内でも、紙ではなく電子ブックを利用して読書する学生が増えている。このサイトはスマホからでも利用できるのも、学生の電子ブックによる多読実践の増加も大いに期待できるだろう。



こちらから英語多読シリーズのタイトル一覧へのアクセスでき、スマホからでも読める。
※学内ネットワークからアクセスしてください。

4. 英語を「読むこと」の重要性

本学の学部生は、入学時4月と1年生12月に全学統一TOEIC-IPを受験する。本年度の結果をみると、リスニングの平均点よりもリーディングの平均点の方が低い。また4月と12月の受験結果を比較すると、リスニングはわずかに上昇しているのに対して、リーディングは下降している。これらの傾向は日本の他大学でもほぼ共通して見られるものである。すなわち、日本人は英語が読めても使えない、と言われていたのは過去のことであり、日本の大学生は総じて英語読解力が下降しているのである。現在の英語教育の現場では「コミュニケーション能力の育成」が叫ばれ続け、結果として授業内で「読む」活動が減ってきているのが実情である。もちろん「聴く」「話す」訓練も大事であるが、英語学習の基本として「読む」訓練の重要性は疎かにできない。実際4つのスキルのうち「読む」活動においては、他のスキルよりも高度な言語材料を扱うことが可能である。一般的に、読んで理解できない英文を聴いて理解することは難しい。逆に読解によって身に付けた高い英語力を、リスニング等他のスキルの向上にも相乗的につなげることは可能である。

そして最後に1つ付け加えるなら、英語多読には語学力の向上だけではない側面があることである。本当の英語読書の醍醐味は、日本語の読書に劣らない知的愉しみをもたらしてくれることにあるだろう。徐々に読書量とともに読書範囲を広げて、大学生にふさわしい知的な英語学習を深めて欲しいと思う。

5. おわりに

以上述べたように、本学の英語読書環境は年々充実したものになっている。最後に、本学学生の「語学学修コーナー」の多読本や電子ブックの利用促進に向けて読者の皆様のお力添えを頂ければ幸いです。

(てらにし・まさこ 全学教育・学生支援機構基幹教育センター外国語教育部門 准教授)

(注1) 『岡山大学全学教育・学生支援機構基幹教育センター外国語教育部門活動報告 2016-2017』 p.48

(注2) 附属図書館学術情報サービス課より提供

マスカット

リンクリゾルバ（電子ジャーナル検索サービス）の変更について

岡山大学では平成 29 年 1 月より、以下のサービスを行うリンクリゾルバを Full Text Finder に変更しました。この変更に伴い画面レイアウトやリストの表示方法が変わりましたが、基本的に従来どおり以下のサービスをご利用いただけます。

- ・電子ジャーナルリストの提供
- ・データベースの検索結果から電子ジャーナル本文・蔵書検索システムへのリンク
- ・データベースでの検索結果を図書システムの文献複写機能へ転記

おすすめ雑誌コーナーの設置について（中央図書館）

中央図書館では雑誌をよりご利用いただけるよう、本館 1 階ロビーに「おすすめ雑誌コーナー」を設置し、気軽に手に取りやすい雑誌を配置しました。

それに伴い、総合雑誌（軽読雑誌）は西館 1 階から本館 1 階玄関ロビーに移動し、西館 2 階のパンフレット（出版社情報誌など）は西館 1 階に移動しております。

どうぞご活用ください。



学生・館長懇談会報告

中央図書館では、平成 28 年 12 月 8 日（水）に、文学部、法学部、教育学部、社会文化科学研究科所属の学生 14 名の参加を得て、今年度 2 回目の学生・館長懇談会を開催しました。懇談会は、学生の皆さんから図書館への要望を直接聞く場を設け、図書館サービスを充実させるために、毎年 2 回実施しています。

この度の懇談会では、学生の皆さんからは実際に利用する上で感じていることを伺い、施設利用時の要望や資料配置の掲示について改善の要望をいただきました。図書館からは 4 学期制 60 分授業を受けて文系学生の図書館利用が変化したかを尋ねました。懇談会終了後、学生の皆さんからの意見を基に、サービス改善に取り組んでおります。図書館は、今後も懇談会での貴重な意見をもとによりよいサービスの提供に役立てていきたいと考えております。

平日早朝開館実施報告（中央図書館）

今年度より早朝開館は、授業期間平日（4月4日～7月29日、10月3日～2月10日）に対象期間を拡大して試行しております。

実施した160日間で、繰上げを行った時間帯（8:00～8:40）の入館者は9,905人となり、多くの皆様にご利用いただきました。好評を受け、当館では来年度も早朝開館を実施する予定です。

知好楽セミナー報告

図書館では、グローバル化時代を生き抜くための「知」と「心」を育む交流をコンセプトとした独自企画「知好楽セミナー」を実施しています。

第10回「地球を感じるー南極からサンゴ礁までー」

日時：平成28年10月12日（水） 15:15～17:10

場所：中央図書館 本館1F ラーニングコモンズ

講師：岡山大学自然科学研究科助教 五百旗頭健吾先生、同 井上麻夕里先生

第2部モデレーター：岡山大学自然科学研究科教授 五福明夫先生

参加者：36名

自然観測と地球環境の変化をテーマに、五百旗頭先生には南極での越冬観測について、井上先生にはサンゴ礁や海洋での調査について、美しい写真とともにご講演いただきました。

第11回「岡山大学開学前夜ー岡山大学キャンパス獲得にまつわるエピソードー」

日時：平成28年11月30日（水） 14:00～15:30

場所：中央図書館 本館2F サルトフロresta

講師：光田博文氏

参加者：62名

第六高等学校および本学卒業生である講師より、終戦後、進駐軍が撤収した陸軍第17師団跡地を、当時、第六高等学校の校長であった黒正巖先生の指揮のもと、確保したエピソードについてご講演いただきました。

第12回「伝わるプレゼンテーション術」

日時：平成29年1月31日（火） 15:00～16:00

場所：中央図書館 本館1F ラーニングコモンズ

講師：岡山大学自然科学研究科教授 五福明夫先生

参加者：25名

卒論・修論・学会等で発表をする学部学生・大学院生を対象に、基本となる考え方や、分かりやすいスライドの作り方など、プレゼンテーションのポイントを伝授していただきました。

池田家文庫絵図展報告

平成28年10月29日(土)～11月13日(日)に岡山シティミュージアムを会場に池田家文庫絵図展「江戸と岡山藩」を開催しました。10月30日(日)には学習院女子大学教授の岩淵令治氏による講演「大名家の江戸勤役」を開催(参加者110名)し、延べ2,320人の方にご来場いただきました。



中央図書館ミニ展示報告

中央図書館本館1Fロビー、本館1Fラーニングcommons内の展示スペースで、当館資料を紹介する「ミニ展示」を実施しています。ぜひご覧ください。平成28年9月～平成29年1月は下記テーマで実施しました。

9月～10月「地球環境をめぐる南極とサンゴ礁」

11月「ノーベル文学賞」

12月「さまざまなセクシュアルマイノリティについて、知る。考える。」企画展(学生相談室主催)

1月「ブックハンティング特集展示」

2月「生協寄贈図書コーナー展示」



9月～10月に行ったミニ展示では、10月12日に開催した知好楽セミナー「地球を感じるー南極からサンゴ礁までー」に関連し、南極とサンゴ礁の観測について関連した図書を展示いたしました。

サルトフロresta展示報告

中央図書館本館2階のサルトフロrestaでは各種の展示を行っています。サルトフロresta内イチョウエリアでは学内の研究成果を発表するポスター展示を実施しています。

また、同じくクスノキエリアの展示スペースでは、学内の資源を使った様々な展示を行っています。対象期間中の展示分は以下の通りです。

- ・「古文書に見る江戸時代の酒造事情」

実施期間：平成28年11月2日～平成29年2月10日

※展示場所を本館2階ロビーに移した期間あり

展示内容：県内博物館等13館での連携展示。池田家文庫・地方資料から酒造事情に関する文書や岡大ブランド酒「おお岡大」に関する資料を展示

- ・「黒正巖先生と津島キャンパス」

実施期間：平成28年11月25日～12月6日

※知好楽セミナー（「岡山大学開学前夜」）との関連で再展示

- ・「おかやまさんぽ」（文学部学芸員課程企画展）

実施期間：平成28年12月8日～12月20日

実施内容：「あしもとに広がる桃太郎の世界」「今昔くらしき」

- ・「岡山の井上通泰」

実施期間：平成29年2月28日～

展示内容：第三高等学校医学部の眼科教授であり、柔術家・国学者であった井上通泰に関する展示



「古文書に見る江戸時代の酒造事情」



「おかやまさんぽ」

ブックハンティング実施報告

附属図書館では学内の利用者に書店で直接本を選んでいただくイベント、ブックハンティングを開催しました。

中央図書館では平成 28 年 10 月 26 日（水）に丸善岡山シンフォニービル店で開催し、4 名の学生に 114 冊の本を選んでいただきました。

資源植物科学研究所分館では、平成 28 年 11 月 9 日（水）に喜久屋書店倉敷店で開催し、4 名（学生 2 名、教職員 2 名）の参加者に 36 冊の本を選んでいただきました。



オリエンテーション・データベース講習会実施報告

○中央図書館

中央図書館では平成 28 年 10 月～12 月、平成 29 年 1 月にオリエンテーション等を実施し、延べ 144 名の方にご参加いただきました。

オリエンテーション、ツアー

実施日	対象	参加人数
10 月 5 日	放送大学学生	1
10 月 13 日、14 日	新入生	8

ガイダンス

実施日	講習会名	参加人数
10 月 11 日、14 日、28 日	図書館・文献検索ガイダンス (教員の依頼により授業・ゼミ等で実施)	56
11 月 9 日、11 日	レポートテーマ設定のためのネタ探し講座	10
11 月 9 日、15 日	先行研究・関連情報探索講座	29

データベース講習会

実施日	データベース名	参加人数
12 月 14 日、16 日	Web of Science	33
1 月 24 日、25 日	JDreamIII	7

○鹿田分館

鹿田分館では平成28年9月、平成29年1月～2月にデータベース講習会を開催し、延べ20名の方にご参加いただきました。

データベース講習会

実施日	データベース名	参加人数
9月15日	Web of Science + EndNote Basic、EBMR、Mendeley	1
1月18日	医中誌 Web	12
2月28日	医中誌 Web	7

教員からの寄贈図書リスト

次の方々から著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。

<中央図書館>

波多野敏 [社会文化科学研究科]

生存権の困難：フランス革命における近代国家の形成と公的な扶助
——勁草書房，2016.7 (309.3/O)

三宅新三 [社会文化科学研究科]

リヒャルト・シュトラウスとホーフマンスタール——青弓社，2016.12 (766.1/S)

沢山美果子 [社会文化科学研究科]

江戸の乳と子ども：いのちをつなぐ——吉川弘文館，2017.1 (385.2/S)

<鹿田分館>

岩月啓氏 [医歯薬学総合研究科]

皮膚疾患ペディア（生涯教育シリーズ）
——日本医師会／医学書院（発売），2016.11 (494.8/HI)

会議

◆学外

- | | |
|--|---|
| 28.9.29 平成 28 年度第 3 回岡山県大学図書館協議会
研修委員会（於：岡山理科大学図書館） | 28.12.2 平成 28 年度国立大学図書館協会中国四国地区実
務者会議（於：岡山大学） |
| 28.11.17 第 52 回日本医学図書館協会中国四国地区総会
～18（於：高知大学学術情報基盤図書館） | 29.1.19 第 4 回岡山県大学図書館協議会研修委員会
（於：就実大学・就実短期大学図書館） |
| 28.11.25 平成 28 年度中国四国地区国立大学図書館所管
部課長会議（於：岡山大学） | 29.2.27 国立大学図書館協会中国四国地区協会事業委員
会総会（於：岡山大学） |

◆学内

- | | |
|----------------------------------|--------------------------------|
| 28.10.31 平成 28 年度第 2 回附属図書館運営委員会 | 29.1.5 平成 28 年度第 3 回附属図書館運営委員会 |
|----------------------------------|--------------------------------|

研修

- ・平成 28 年度大学図書館職員短期研修
参加者 市地 七実子（10.4～7）
- ・第 57 回中国四国地区大学図書館研究集会
参加者 水内 勇太（10.13～10.14）
- ・平成 28 年度実践型グローバルビジョン研修
参加者 参加者 竹下 啓行、山田 智美
（10.20～21）
- ・男女共同参画に関する管理職セミナー
参加者 沖 陽子、山田 周治、大元 利彦、
森谷 めぐみ（11.1）
- ・第 18 回図書館総合展
参加者 森谷 めぐみ（11.8）
大園 隼彦（11.7～11.9）
- ・平成 28 年度岡山県大学図書館協議会研修会
参加者 市地 七実子、羽田 まどか（11.21）

編集委員から

図書館報の「楷」No.64 を無事発行することが出来ました。今号は、毎号表紙を飾る「備前国備中国之内領内産物絵図帳」について紹介したいと思います。池田家文庫に入っているこの「産物帳」は、徳川吉宗が作成を命じたもので、岡山藩のものには 228 種の動植物が極彩色で描かれています。作成にあたったのは岡山藩学校の儒者達でした。目に楽しいこのような史料も池田家文庫には多く残されており、この「楷」の表紙もその恩恵にあずかっています。（T.F.）

岡山大学附属図書館報「楷」 No.64 平成 29 年 2 月 28 日
発行人 山田周治 編集 広報ワーキング
岡山大学附属図書館発行 〒700-8530 岡山市北区津島中三丁目 1-1
ホームページ URL <http://www.lib.okayama-u.ac.jp/>